

Kappa Novels



お願い——

この本をお読みになって、どんな感想をもたれたでしょうか。「読後の感想」を左記あてにお送りいただけます。なお、このほかに、「カッパの本」では、どんな本を読まれたでしょうか。どの本にも、一字でも誤植がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢などもお書きそえくだされば、幸せに存じます。

東京都文京区音羽二の十二の十三

(郵便番号112)

光文社 出版局

長編アクション小説 処刑戦士 ￥650

昭和54年6月30日 初版1刷発行

著者 おお 大 藪 春 彦
東京都世田谷区松原3-3-18
発行者 小 保 方 宇 三 郎
印刷者 萩 原 崇 男
東京都文京区後楽2-21-12
萩 原 印 刷

発行所 東京都文京区音羽2 株式会社 光 文 社
振替 東京6-115347 電話 東京 (942) 2241(代)

落丁本・乱丁本は本社でお取替えいたします。(ナショナル製本)
表紙の模様・意匠登録 116613 © Haruhiko Oyabu 1979

(分)0-2-93(製)02373(出)2271(0)

Printed in Japan

長編アクション小説

しよ けい せん し
処刑戦士 「日本パルチザン伝記」改題

おお やぶ はる ひこ
大藪春彦



カッパ・ノベルス

この作品はあくまでもフィクションであり、実在する
いかなる国家、団体、個人等にも関係ありません。

著者

目次

第一章	買占め屋	5
第二章	四人の戦士	17
第三章	犯す	31
第四章	猿田 さるた 機関	56
第五章	隠れ家 が	74
第六章	傭兵 ようへい	98
第七章	サディスト	123
第八章	私設美術館	150
第九章	夜の素顔	177
第十章	隠し金	196
第十一章	特別病棟	216
第十二章	攻撃	246

イラストレーション

石川 俊

第一章 買占め屋

I

狂ったような暑さが続いた本州にも、やっと秋が訪れた。ここ信州軽井沢は、陽が差しこまぬ屋内では、昼間でも暖房が欲しいほどの肌寒さだ。

旧軽の商店街に進出していた大都会からの出店は、その大半が店を閉じ、少し前まではメイン・ストリートを埋めていたボーイ・ハントやガール・ハント目当ての若い男女の姿も、今の季節にはほとんど見当たらない。

旧軽の西北側にある三笠の高級別荘地の中心を、カラマツ並木の通りが貫いている。その三笠通りの西半分の車道は旧軽から小瀬温泉や白糸の滝のほうに向かう一方

通行、東側は逆方向の一方通行路になっている。

両者のあいだにかなりの段差があるのは、かつてそこを通っていた草軽電車の軌道の名残りだ。

カー・ステレオやC・Bラジオと称される市民バンド無線器等の対米輸出の成功で発達したパンサー電機の會長松井光一の広大な別荘は、三笠通りの西側にある。

そのあたりの別荘の住人たちは、もうほとんどが引き揚げ、残っている者といえ、引退して金利生活を送っている老人ぐらいだ。

かつては旧軽の商店街の有料駐車場からあふれて、駐車禁止の筈の三笠通りにびっしりと路上駐車していた県外ナンバーの車も見当たらぬ。

夜であった。松井の別荘の、歩道に面した正門から二百メートル以上奥にあるピロティ式建物の母屋の近くには、紫色の誘蛾灯が数本光り、十数台の高級車やステーションワゴンが駐まっていた。

その別荘の一万坪を越す敷地の三方は塀に囲まれていたが、背後だけは、小瀬のほうから流れてきて、雲場ノ池にそそぐ精進場川の細い流れによって、鹿島の森に続く隣地とへだてられている。

コオロギやスズムシやマツムシが鳴き、水車場の杵が

白を素早くつくような音をたててヨタカも啼いていた。

そしてカラマツや赤松、白樺、樺などの林と、萩やスルデやナナカマド、それに野生のサンショウなどの灌木、アザミやキキョウやシダやヘビイチゴなどの草が生い茂った広大な庭のなかを縫う小路を、拳銃を握ったりM1カービンを胸に抱いたりした二十人の男がパトロールしていた。

彼等はヘルメットに、腰の小型バッテリーからコードでつながったヘッド・ランプをつけている。

二人一組ずつになってパトロールしている彼等のうちの五組は、左腕に黒い腕章を捲いている。全日本スピード・ボート協会と船舶事業発展会の終身会長であり、ロックウイード事件で宿敵児島を倒して以来日本の首領にのし上がった商業利権右翼竹山一成が抱えている組織暴力団義誠会の連中だ。

あとの五組は、右腕に黄色い腕章を捲いていた。彼等は、ピンは銀行や総合商社、キリは脱税用のトンネル会社まで抱えている光和グループと深い関係にある組織暴力団花菱組の連中だ。

義誠会と花菱組は今のところ敵対関係にある。だから、彼等はパトロール中にすれちがう時は唇を歪めあう。

2

軽井沢名物の夜霧が出てきた。

パンサー電機会長松井の別荘の広大な庭にヨタカが啼きやみ、誘蛾灯やパトロールの暴力団員のヘッド・ランプが霧ににじむ。

戦後しばらくして弱電関係の町工場として出発したパンサー電機は、米国の通信販売会社のビッグ・スリーの一つであるコインズの下請け会社として発展した。

日本ではメイル・オーダーの通信販売は大企業になりにくい、ちょっとした買い物にも長時間車を飛ばさねばならぬことが多い広大な田舎を持つ米国では、カタログによるメイル・オーダー会社は、日本の大デパートよりも売り上げが上回るところが少なくない。

パンサーの製品は、コインズ社のブランドで全米に売られた。

しかし、力をつけてきた松井一族としては、パンサーのブランドで自社製品を全米に売れたかった。

そこに降ってわいたのがオイル・ショックであった。すでに低コストのC・Bラジオの無線器を開発していた

パンサー電機は、コインズと手を切り、全米に現地人デ
イラーを置いて、パンサー・マークⅢのC・Bラジオ、
つまり強力なトランシーヴァーを売った。

オイル・ショックによって全米のハイウェイに最高速
度五十五マイル制限が敷かれたから、取り締まりの情報
を交換しあって罰金を逃れるために、プロの長距離十八
輪トラック・ドライヴァーにとってC・Bラジオは必需
品となった。

一般ドライヴァーにとっても、数時間走っても同じよ
うな風景が続くインターステート・ハイウェイの無聊と
孤独をまぎらわせるおしゃべりが楽しめるC・Bラジオ
は爆発的な人気を呼んだ。

無論、パンサー社のライヴァルは多かったが、パンサ
ー・マークⅢはダンピングの嫌疑を掛けられたほどの安
値で勝負した。

そして、普通の形式のC・Bラジオが行きわたった現
在は、電話と同じようにお互いにトーキング・スウィッ
チをオン・オフしなくても会話出来、他人の会話にも割
りこむことも出来るマークⅤを開発して米国のドライ
ヴァーの人気を得ている。

現在、パンサー電機の資本金は四十億円、年間売り上

げ約八百億、経常利益七十億、一部に上場して二十パー
セントの配当を行なっている。

パンサー電機は、会長の松井光一と弟であり社長でも
ある栄二のワンマン会社——ツーマン会社と言うべき
か？——であり、松井兄弟の気まぐれな抜擢制度によって、
四十歳台で年収三千万を得ている社員もいれば、同じ年
で年に三百万にも満たない者もいる。

光和銀行がパンサー電機のメイン・バンクだ。

パンサー電機は過少資本の上に浮動株が少ない。浮動
株が少ないと、ちょっとした株の売買で株価が大きく動
く。

五百株以上五万株未満の小口株、つまり大衆株が浮動
株だ。証券取引所は、一般投資家保護の名目で、浮動株
数や浮動株主数が一定の基準よりも足りない、第一部
上場企業は第二部に落とし、第二部上場会社は上場廃
止にする。株の買占め屋は、最低浮動株基準を逆手にと
って、狙った会社に、買い占めた株を高値で買い戻させ
て荒稼ぎするわけだ。

松井の別荘の、贅^{ぜい}を尽くした母屋のサロンでは、大きな暖炉がブナや白樺の薪の炎をあげ、八人の男がマホガニーのテーブルを囲んでいた。

サロンの両側の隅に大型のジュラルミン・トランク数十個が置かれている。西側に積まれたトランクの前に立ち、上着の裾をまくってヒップ・ホルスターのワルサーP38を見せびらかしているのは、左腕に黒い腕章を捲いた暴力団義誠会の、早射ちの忠という男だ。

東側に積まれたトランクの前で、ショールダー・ホルスターを隠した上着の襟^{えり}を右手でいじっているのは、暴力団花菱組の拳銃使いのハジキの勝という男で、右腕に黄色い腕章を捲いている。

テーブルを囲んでいる男たちは――、

パンサー電機の会長松井光一と社長の松井栄二、パンサー電機のメイン・バンクである光和銀行の副頭取宮田、光和商事の社長糸井、それに会社乗っ取りや株の買い占めでも荒稼ぎをしている全日本スピード・ボート協会終身会長竹山一成の五男の正五^{しやうご}と、正五が社長をやっている水事興業の秘書課の三人だ。

水事興業KKは、全国のスPEED・ボート競技場を経営し、その競技場内の食堂や喫茶店だけでなく、弁当の

売買やソフト・ドリンクやアルコール類の自動販売機の権利まで完全に握っている。

社団法人全日本スピード・ボート協会のレースは、従来のギャンブル競艇が、狭いコースで車でいえばジムカーナやスラロームのように低速コーナリングで勝負を争うのに対し、車でいえばフォーミュラ・カーや純スポーツ・カーのレースのように広くテクニカルなコースでの高速コーナリングを売り物にし、現在では年間一兆五千万円近い売り上げを誇っている。

レースが高速になるほどエンジン・トラブルや舵^{かじ}の故障の発生率が高くなるだけでなく、転覆や接触炎上などによって上位艇が潰^{つぶ}れることも多く、ギャンブル性が強調され、素人の客でもマグレ当たりする確率が高いことが人気を呼んでいる。

財団法人船舶事業発展会は、スピード・ボート競走の売上金の一部を吸いあげて造船事業の助成資金とするほか各種の公益事業を行なうことを目的にして設立されたものだ。これも竹山一成が終身会長をやっている。

船舶事業発展会が全日本スピード・ボート協会から吸いあげる金額は、総売り上げの五パーセントだ。

したがって、年に七百億を越える金が船舶事業発展会

に入ってくる。

船舶事業発展会は、その金を交付金という形で各種団体に与えるわけだが、交付金を受け取るほうの団体の大半も、竹山一成は無論のこと、竹山一族が支配して私物化しているのだから、竹山一成は無尽蔵とも思える軍資金を使い、野望の成就に向けて突っ走ることが出来るわけだ。

船舶事業発展会は、特殊法人とちがって財団法人だから、竹山が交付金を受け取るほうの団体の会長や理事長を兼ねても違法ではない。

船舶事業発展会の莫大な資金を取り上げて自分のものにしてようと、一の子分をその会の会長に押しこもうとした田口前首相がロックウイード事件でつまづいて以来、竹山は現首相の福本との利権や献金によるキズナをますます固め、名実共に日本のドンにのし上がっている。

4

松井の別荘には、サロンに集まっている男たちのほかに、松井のパンサー電機側と竹山の水事興業KK側の経理部員たち五人ずつが別室に待機していた。

サロンに、カクテル・ワゴン車を押して、ラヴェンダー色のロング・ドレスをまとった三十歳近くの女が入ってきた。情熱を秘めながらも愁いを含んだ瞳と、いかにもフェラチオを好みそうな唇、着痩せして見えるドレスの谷間からはみ出しそうなバストを持つ女だ。

TVの昼ドラマや深夜番組で、数日に一回はオール・ヌードに近い姿でベッド・シーンを見せて、心は亭主に尽くしても体はほかの男たちを求めてやまぬ人妻役を演じる吉野順子だ。受験浪人のオナペット・ナンバー・ワンと言われている。

順子は男たちの注目を浴びながら、脂ぎった松井光一の耳に軽く唇を当てた。

順子は光一の愛妾だが、光一のパンサー電機が輸出専門会社で国内での知名度が低いから、マスコミに二人の関係は書かれたことがない。

目のやり場に困った男たちが目を伏せたり天井を見上げた隙に、順子は竹山正五と、そっと目くばせを交わした。

「ようこそ、皆さま。くつろいでくださいね。お好きな飲み物をお作りしますわ。どうか御遠慮なくおっしゃってくださいな」

順子はセクシーな声と身振りで言った。

「では、私はマンハッタンを。勿論、ライ・ウイスキーを使って、ウイスキーとヴェルモットは半々にしていたらどうか？」

竹山正五はドスが効いた声で言った。小柄で痩せているが、いかにも精悍な感じの三十五、六の男だ。

妖艶な笑いを浮かべた順子は、ミキシング・グラスに、すでに冷やしてあったライ・ウイスキーとイタリアン・ヴェルモットを注ぎ、チェリーと氷を入れてスティックでかきまぜた。

カクテル・グラスにそのマンハッタンを移し、オレングの皮の小片を浮かべて竹山に渡す。

テーブルについているほかの男たちも、次々に飲み物の注文を順子に出した。シェリーやマティニーやジン・トニックを竹山の三人の秘書は頼んだが、パンサー電機側の男たちはみんなスコッチの水割りを所望した。

竹山正五が三杯目のマンハッタンのグラスに口をつけた時、咳払いした松井光一が、

「こんな遠いところまでお越しくださしまして、さぞお疲れとは思います。夕食の用意は出来ておりますが、その前に取引を済ませたいとおっしゃるなら、お望みどお

りにいたしますが」

と、竹山に言う。

「避暑客がほとんど去った軽井沢なら、マスコミの目を避けるのに都合がいいというわけで、私のほうからここでの取引を望んだのだから、恐縮されることはない。それに私は南軽までヘリで一飛びしたことだし。そうですな、腹がへつとると勝負をいそぎすぎる嫌いがあるから、まずは御馳走になるとしますか」

タバコをくわえた竹山がそっくり返った。秘書の一人が火をつけたカルチェのライターを素早く差し出す。

竹山の水事興業はパンサー電機の浮動株を買い占め、今夜はそれをパンサー側に買い戻させる最終交渉と、現ナマと実株の、証券取引所を通さない直接受け渡しが行なわれることになっている。

5

証券取引所の上場基準によると、第一部銘柄の上場

株式数が二千万株を切り、資本金も十億を切った場合や、浮動株主数が二千人に満たなくなった場合などのほか――、次の場合には一年の猶予期間を置いて第二部銘柄



に落とされる。第二部落ちというより、上場自体が問題にもなる。

つまり、上場株式数が六千万株未満の場合は、浮動株式数が二十パーセントに満たない時……上場株式数が六千万株以上二億株未満の場合は、浮動株式数が七百二十万に上場株式数の八パーセントをプラスしたものに満たない時……上場株式数が二億株以上の場合は、浮動株式数が千百二十万株に上場株式数の六パーセントをプラスしたものに満たない時だ。

全日本スピード・ボート協会と船舶事業発展会の終身会長竹山の五男の正五が社長をやっている水事興業KKとその子会社が、松井のパンサー電機の浮動株を買い占めはじめたのは昨年の初冬からであった。

ドル・ショックで青息吐息のライヴアル企業とちがって低コストでありながらユニークな製品であるパンサー電機のC・Bラジオ・マークV^{ファイブ}は、好調な対米輸出を続けている。

そのパンサー電機の株価は、竹山一族が買いはじめた時は五百円前後であったが、竹山の買いが噂^{うわさ}されてから急騰し、今年の初夏には千円近くまでなった。

すでに今年三月の名義書換えの段階で水事興業が買っ

た株が数百万株ずつ数回にわたって出てきて、名義書換えの最終リストが出た時点では、水事興業はパンサー電機の株を八百万株取得したことが分かった。

あわてた松井兄弟は、政治家に紹介状を書いてもらって竹山正五のところに挨拶に行った。

そこで松井兄弟は、竹山一族が買い占めたパンサー電機株は二千万株と知らされて仰天した。

竹山ファミリーは、水事興業の名だけでなく、その子会社やダミー会社や幽霊会社の名を使って買い占めてあったのだ。

パンサー電機の株の総発行数は八千万だから、二千万株は全体の二十五パーセントに当たる。パンサー電機の浮動株はそれによって大幅に不足するし、竹山はパンサー電機に役員を送りこむことが出来る。

蒼^{あお}くなつて震えはじめた松井兄弟に、正五は、
「浮動株不足でパンサーさんが第二部落ちされたりしたらお気の毒なことになりますな。そんなことにならないように、私のほうはおたくさんに協力する用意はありますよ」

と、ニヤリと笑った。

時価か、プレミアム付きで株を買い戻せ、とパンサー

側に暗に要求したわけだ。

「二千万株となりますと、とても私どもの一存ではどうにもなりません。大株主でありメイン・バンクでもある光和銀行さんに相談してから出直して参ります」

松井兄弟は答え、よろめくように竹山正五の事務所から去った。

それから、松井兄弟を竹山正五に紹介した、福本首相派の政治家で元大蔵官僚の沢本を通じて交渉がくり返された。

竹山側は、はじめ一株に二百円のプレミアをつけて一株千二百円、二千万株全体で二百四十億円でならパンサー側の買い戻しに応じていい、と言った。

6

当時——そして現在でもそうだが——、竹山ファミリアは、日新自動車とベル自動車の自動変速機オートマチック・ミッションを作っていたオートマチック精機の株を大量に抱えこんで身動きがとれなくなっていた。

竹山ファミリアが買い占めたオートマチック精機株は五千万株、現在の時価で六百億にのぼるから、いかに竹

山ファミリアが金を持っているとしても、それほどの金が凍結状態にあるのは痛い。そうでなくても、一時は二千万をはるかに越えるほど暴騰したオートマチック精機株は値崩れして千二百円台になってしまい、それもちょっとでも売りに出すとたちまち値さがりするから、竹山ファミリアが受けた打撃は大きい。

六、七年ほど前から日本でもオートマチック・ミッションが大衆に受け入れられはじめた。それに急激にのびはじめていた対米輸出車にはノー・クラッチの自動変速機を装置することが不可欠だ。

当時は日新自動車とベル自動車は業務提携していた。日新は供給が需要に追いつかぬ小型車の一部を、大半が遊んでいたベルの乗用車用工場に依託生産させていた。

自社製の効率が悪い二速自動ミッションを作っていた日新とベルは、米国の自動ミッション・メーカーのパワー・ダイナミック社からライセンスを買って、三速自動ミッションを製造するオートマチック精機を設立した。

しかし日新は近年になって、その性能がパワー・ダイナミック社のものよりもはるかにまさる西ドイツのアルパイン社の製品に色目を使い、それを買って付けて自社製のスポーツ・タイプの車に取り付けるとともに、アル

パインの技術を導入した自動ミッション専門の子会社を設立し、自社の全車種に装着しようと、ひそかに計画していた。

日新が一時は業務提携していたベルは、全米自動車界のビッグ・スリーの一つであるワールド・モーターズの傘下に入ってしまったから、日新とベルの関係は冷えきっていた。

そこで日新は、お荷物になったオートマチック精機の株を売り払って新しい子会社の設立資金を捻出^{ねんしゅつ}するため、

「パワー・ダイナミック社が近く、ボタンの一押しでパワー・レンジとエコノミー・レンジの切り替えが出来る画期的な自動ミッションを発表する。それは当然ながらオートマチック精機でライセンス製造されることになるから、その時には日新でも再びオートマチック精機の製品を大々的に買いつけるようになる」

という兜町^{かぶちやう}情報を流した。無論、噂の出所が日新だと知られないように細心の注意を払った。二年前のことだ。

そのガセネタに引っかけたのが竹山ファミリーだ。

当時オートマチック精機の株は、日新がその社の製品を買い控えていたために六百円ほどにさがっていた。

しかし、竹山ファミリーが浮動株を買い占めはじめると、二千円台に値を飛ばした。

そこで日新はオートマチック精機の株を売りに出した。ピーク時には二千五百円近くまで暴騰したオートマチック精機株は、翌年の名義書換えのシーズンが終わって、日新が持ち株の三千万株をすべて売り払っていることが判明した時から暴落しはじめた。

あわてた竹山側がオートマチック精機株を売り逃げしようとする、一日に一株数百円単位で値下がりしていったから、竹山ファミリーは売ろうにも売れなくなった。一株千二百円台にさがった時点で、売り買いがないために、その人為的な値が動かなくなった。

竹山ファミリーは日新を恫喝^{どくかく}して、抱えこんでいる株を引き取らせようとしたが、すでにオートマチック精機から役員を引き揚げていた日新は、竹山の強要をはねつけた。日新は福本首相と次期保守党総裁の椅子を争う大田幹事長に多額の政治献金を行っていたから強気であった。

竹山の強要をはねつけただけでなく、日新は、アルパインのライセンスを買って、自前の自動ミッション製造の子会社を設立し、その工場を突貫工事で完成させた。

竹山一族は、今度はベル自動車にオートマチック精機株の時価買い取りを要求したが、日本の国家予算に匹敵する売り上げを誇るワールド・モーターズが資本参加しているベル側は、

「ワールド・モーターズがウンと言ってくれないのでどうしようもありません。自動変速機はイメージで売る大衆製品でないので、浮動株不足で第二部落ちしても痛くもかゆくもない。竹山さん側がオートマチック精機に役員を送りこんでくるつもりなら、それも結構。」

ただし、その場合には、ベルはワールド・モーターズから自動ミッションを買い付けることにします。ワールド・モーターズは、今は日本の小型車にも装着出来る小型の自動ミッションを製造しているから……ただし、そうになったら、オートマチック精機は倒産して竹山さんがお持ちの株券は紙クズ同然となりますが」

と、答えた。

怒り狂った竹山ファミリーの代理人の沢本代議士は、「ベルは、経営責任というものをどう心得ておるのか！それに、オートマチック精機が倒産したら、ベルの持ち株もパーになるんだぞ。オートマチック精機の土地建物や設備は銀行の担保にとられているから、あそこには含

み財産もない」

と、テーブルを叩いた。

「ワールド・モーターズの意向ですから、ベルとしましてはどうにもこうにも……それに、ベルがワールド・モーターズの自動ミッションを買い付けるようになったら、あちらさんはベルに多額の融資をしてくれる上に、あちらさんのブランドで全米に売っているベルの車の販売になお一層の努力をしてくれる、ということなので……」

ベル側は答えた。

沢本ではラチがあかないと見た竹山側は、福本首相を動かして、直接ベルの社長に電話を掛けさせた。

それに対しての反応はすぐに表われた。ただし、竹山側の期待と反対の形で……。

米合衆国大統領から、福本首相に、ワールド・モーターズの傘下にあるベル自動車に圧力を掛け続けるなら、米国は日本からの輸入車に台数制限を行なう用意がある……という通告がホット・ラインを通じてあったのだ。

ワールド・モーターズは大統領選で、現大統領を強力にバック・アップしただけでなく、閣僚や政府関係の要職のなかに多数のワールド・モーターズ出身者を送りこんでいる。